日本赤十字社 大阪赤十字病院
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

La Confiance

ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance（コンフィアンス）とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.51 2026年 春号

新院長就任のご挨拶

大阪赤十字病院 院長 羽渕 友則

Topics

・対外衝撃波結石破砕装置ESWLの新型を導入

・ゆめおりホール

診療科紹介 医療最前線 〈整形外科〉

脊椎手術支援装置「O-arm」を導入しました

Paris

新院長就任のご挨拶

大阪赤十字病院 院長　**羽渕 友則**

このたび、4月1日付で大阪赤十字病院院長を拝命いたしました羽渕友則です。前院長・坂井義治先生の後任として、微力ではありますが、患者さんやご家族に「この病院で診てもらってよかった」と心から感じていただける病院を、皆さまとともにつくり上げていく決意です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は京都市生まれで、昭和61年（1986年）に京都大学を卒業後、泌尿器科の道に進みました。静岡県の島田市民病院での勤務を経て、1991年に京都大学へ戻り、1994年からは英国にて3年間、膀胱がんの研究に従事いたしました。2001年に京都大学助教授、2003年からは秋田大学医学部泌尿器科教授として22年半勤務いたしました。その間、2014年から5年間は附属病院長を、2022年から4年間は医学部長を兼任いたしました。

前任地である秋田県は、少子高齢化と人口減少が全国で最も進む地域であり、高齢化率は40%を超え、がん死亡率や脳血管障害死亡率も全国上位に位置しています。日本の将来の医療課題を先取りする地域とも言える環境でした。さらに県土は全国6番目の広さを有し、広域の医療圏を限られた医療資源で支えるという、極めて厳しい医療体制の中にありました。

大阪赤十字病院のある大阪市は、秋田とは医療環境が大きく異なります。しかしながら、大都市においても高齢化は確実に進行しており、医療・福祉を取り巻く課題は決して少なくありません。そのような中、遠く北東北におりましても、大阪赤十字病院の高い評価や活気ある取り組み、模範となる医療活動について耳にする機会が幾度となくありました。大阪の住民の健康を守り、地域医療を支えながら、先進的かつ確かな医療を提供するという当院の使命の重さを、あらためて強く感じております。

100年を超える歴史を有する当院は、皆さまが築いてこられた信頼と伝統に支えられています。この財産は決して揺らぐものではありません。しかし、医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療技術も日々進歩しています。今後も最新の医療機器の整備や技術導入を進めるとともに、多職種が緊密に連携するチーム医療をさらに推進し、安全で質の高い高度医療を安定的に提供し続ける必要があります。

当院はこれまで、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、大阪府地域周産期母子医療センターなど数多くの公的指定を受け、高度急性期病院としての役割を担ってきました。三次救急医療機関として「断らない病院」を基本姿勢に掲げ、重篤な救急患者さんに全力で対応し、2024年度の救急車受け入れ件数は1万1千件を超え、増加傾向にあります。今後も各専門診療科が一体となり、地域医療の「最後の砦」として、市民の命と安心を守り続けていかなければなりません。

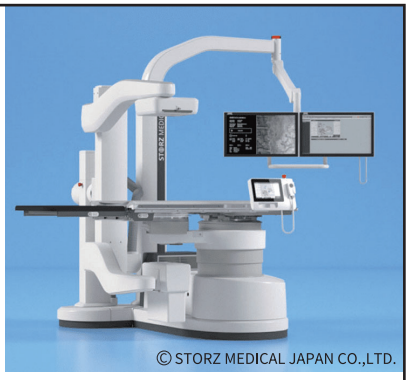
また、地域に根ざした高度急性期病院として機能するためには、近隣医療機関や開業医の先生方との信頼関係と連携をさらに強化することが不可欠です。院内の連携はもとより、地域との連携を一層深めることで、地域の医療を守る総合病院としての存在価値をさらに高めていきたいと考えております。

私たち職員が最も大切にすべきものは、「人道・博愛」の赤十字精神に基づく、「安心・喜び・希望を届ける、心のかよう高度な医療」です。すべての人の尊厳を守る最善の医療を実践するためには、医療の質だけでなく、組織としての信頼、風通しの良さ、互いを尊重する文化が不可欠です。当院の強みをさらに伸ばし、赤十字病院としての使命を果たしていくために、皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

最後に、「安心・喜び・希望」は患者さんだけでなく、ここで働く私たち一人ひとりにとっても欠かせないものです。職員が誇りとやりがいを持ち、安心して力を発揮でき、希望をもてる病院であってこそ、より良い医療が提供できると信じています。全職員が「ここで働ける喜び」を感じられる病院を、皆さまとともに築いてまいりたいと考えております。

Topics 1　〈泌尿器科〉2026年2月上旬より本格稼働！

対外衝撃波結石破砕装置ESWLの新型を導入



これまで腎結石や尿管結石といった尿路結石に対する治療法のひとつである「対外衝撃波結石破砕術」に、従来より大型で破砕効率の高いストルツ社の「モデュリスSLX-F2 FD21」を導入しました。

特　徴

①強い衝撃波を安定的に発生
②これを反射させてロスなく結石に集中させる精度の高い大口径治療ヘッド
③結石に照準を当てるためのインライン方式のX線透視システム
④解像度の高いフラットパネルディテクター

これらにより正確で効率よく結石破砕が行えるようになりました。この装置は胆のう結石や膵石に対する治療にも保険適応があります。患者さまには、病状に応じて入院治療と外来治療を担当医が提示させていただきます。また、保険では一連の尿路結石に対して1回のみ算定が可能とされており、すべての尿路結石に適応があるわけではありませんので、担当医とよくご相談ください。

診療科紹介 医療最前線 〈整形外科〉

脊椎手術支援装置「O-arm」を導入しました

Profile

整形外科部副部長・
脊椎センター長
堤　良祐

1998年京都大学医学部卒業。倉敷中央病院などで初期研修。2004年から京都大学大学院、2008年に博士号取得。2009年大阪赤十字病院に就任、2015年より現職
【資格】日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／日本脊椎脊髄病学会認定指導医／難病指定医

三次元CT画像で確実かつ再現性の高いインプラント設置が可能

当院整形外科では、地域の先生方と連携していただきながら、地域基幹病院として手術加療中心に治療を行ってまいりました。近年の傾向として、従来からの変性疾患や脊椎外傷の手術に加えて、高齢化に伴う骨粗鬆症性脆弱椎体骨折や成人脊柱変形による姿勢異常など、さらに難易度の高い手術が必要な疾患が増加しています。

脊椎インストゥルメンテーション手術において、スクリュー等のインプラントの設置精度は、固定性および神経・血管保護に極めて重要です。従来は術中透視（C-arm）を用いて確認を行っていましたが、二次元画像での評価には限界がありました。そこに今回、脊椎手術支援装置「O-arm」を導入いたしました。本装置は手術中に三次元CT画像を撮像でき、ナビゲーションと連携することで、インプラントの位置をリアルタイムに確認しながら手術を行うことが可能です。これにより上位頸椎、再手術症例、回旋変形や骨欠損を伴うなどの解剖学的リスクの高い症例においても、盲目的操作を排し、確実かつ再現性の高いインプラント設置が可能となりました。今までもより精度の高い安全な治療提供ができるようになり、地域医療にも貢献できるかと考えております。

▼O-arm

今後も地域の先生方との連携を大切にし、協力して医療提供を行えるよう努めてまいります。脊椎疾患でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひ当院整形外科までご紹介いただけますと幸いです。

成人脊柱変形の手術に積極的に取り組んでいます

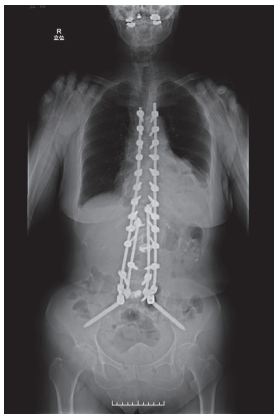
▶担当医：姜（かん）　▶外来：水・木曜日

成人脊柱変形は、保存的治療に抵抗する難治性の腰背部痛、姿勢異常、歩行障害の主因となる疾患です。立位バランスの悪化により日常生活が困難な症例や、変形に伴う腹部圧迫による食欲不振・逆流性食道炎を伴う症例に対しては、手術的治療が有効です。

当院における脊柱変形手術の特長

①高度脊柱変形手術における「安全性」

当院では、脊柱変形症例においてO-arm ナビゲーションを標準使用しています。三次元画像による詳細な解剖学的評価を行い、正確に椎弓根スクリュー刺入を行うことで、神経合併症のリスクを回避し、高い矯正力と安全性の両立を実現しています。



②困難とされる「矯正骨切り術」の実践

脊柱変形治療の真価は、構築性の高度脊柱変形（Rigid Deformity）をいかに矯正できるかにあります。当院では、難易度が高く敬遠されがちな「矯正骨切り術」を積極的に実施しています。生体力学に基づく的確な矯正を行うことで、理想的なアライメントの獲得と、長期成績の向上を目指します。

姿勢異常の患者さん、手術適応の評価を含めてご相談いただけますと幸いです。

Topics 2

「ゆめおりホール」のご案内

1階エントランスホールをリニュアルいたしました。

▲当院の歩みがわかる年表

◀自然をモチーフにした西陣織

大阪赤十字病院は、明治42年の開設以来、時代とともに変化する医療ニーズに応えながら地域医療に貢献してまいりました。このたび、来院される皆さまにより心地よくお過ごしいただけるよう、エントランスホールを整備し、「ゆめおりホール」と名付けました。本事業はご寄付により実現しました。「病院らしさ」を抑え、開放感と温かみのある空間とし、木や緑を取り入れて、気持ちが和らぐ場を目指しました。

「ゆめ」には、希望や願い、未来への思いを込めています。治療への前向きな気持ちや回復を願う心が、明日への力につながることを願っています。「おり」には、人と人との思いを紡ぐ意味を託しました。縦糸と横糸が交わって布が織られるように、多様な人が支え合う姿は、赤十字の“クロス”にも通じます。壁面には当院の歩みを紹介する歴史展示パネルを新設しました。緑を基調としたアート作品も展示、さらに講演会や健康教室などにも活用できる場となっています。生まれ変わったホールが、皆さまに安心とやすらぎをお届けし、ほっと心がほどける場所となれば幸いです。ぜひお立ち寄りください。

メールマガジン登録のお願い

このたび当院では、地域の医療機関の皆さまとの連携をこれまで以上に深め、必要な情報をより迅速かつ的確にお届けするため、メールマガジンの配信を開始いたしました。

メールマガジンにご登録いただくことで、各科の診療内容・診療体制の変更、専門外来、研修会のご案内など、地域連携に関わる最新の情報をタイムリーにお受け取りいただけます。ぜひご活用ください。

ご登録いただいた医療機関様につきましては、これまで郵送しておりました紙媒体の広報誌の発送を終了し、今後はメールマガジンによる情報提供に一本化いたします。つきましては、下記二次元バーコードにアクセスし、ご登録のお手続きをお願いいたします。

https://forms.gle/AuzRLRAJnZswyZHy9

※メールアドレスを登録いただくタイミングによっては、手続きの都合上、紙の広報誌が届く場合がありますのでご了承ください。

▼メールマガジン（イメージ画面）

「スポーツ整形外科」診療終了のご案内

このたび当院では診療体制の見直しに伴い、2026年2月末日をもちまして「スポーツ整形外科」の診療を終了することとなりましたので、ご案内申し上げます。

これまで当科では、スポーツ外傷・障害に対する専門的診療および関節鏡を中心とした低侵襲手術治療を行ってまいりましたが、今後は整形外科全体として診療機能を再編し、より効率的かつ質の高い医療提供体制を構築してまいります。

今後とも地域医療連携の一層の充実に努めてまいりますので、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

人事異動紹介

2026年4月1日付
新任 院長・副院長・部長・副部長

【院長】羽渕 友則
【副院長】橋本 憲司(脳神経外科 主任部長)
【心臓血管外科】長澤 淳 部長
【産婦人科】岡田 由貴子 部長
【泌尿器科】清水 洋祐 部長
【放射線治療科】坂本 匡人 部長
【小児科】大部 聡 副部長
【小児外科】堀池 正樹 副部長
【放射線治療科】小坂 恭弘 副部長

※人事異動の内容は現時点のものです。今後変更になる可能性があります。最新情報は、右記二次元バーコードから当院ホームページでご確認いただけます。

発行
大阪赤十字病院　医療連携・入退院支援課
大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30
https://www.osaka-med.jrc.or.jp

2026年4月発行

■医療連携・入退院支援課のご案内
受付時間／平日8:30〜20:00、土曜8:30〜13:00
休 診 日／日曜・祝日、12月29日〜1月3日(年末年始)、5月1日(本社創立記念日)
連 絡 先／(直通) **TEL:06−6774−5127**
FAX:06−6774−5126